

鹿児島県柔道会だより

■発行人：北 哲郎 ■編集：総務部編集委員会 ■発行：公益財団法人鹿児島県柔道会(099-222-7770)

平成25年度県柔道会基本方針

会 長 北 哲郎



1 嘉納師範の理想とする「柔道を通じた人づくり」, 「人間教育としての柔道」の推進

2 「武の国薩摩」復活を目指した競技力向上, 2020年本県開催の国体に向けた指導体制強化と選手育成

本年度も、指導者自らが襟を正し、嘉納師範が提唱した「己を完成して、世を補益する」ことを実践し、安心、安全、「事故0」を命題とした柔道の普及、振興、発展のため、諸事業を幅広く展開し、「教育柔道」と「競技力向上」を最重点課題として、より以上の成果を目指し強力に推進していく。

また、公益財団法人鹿児島県柔道会発足2期目を迎え、役員(理事)の改選と定款の見直しにより、組織内部体制の確立と責任分担の明確化を図る。

「定期総会」報告

平成25年度の公益財団法人鹿児島県柔道会定期総会が、4月20日(土)開催されました。北会長挨拶の後、平成24年度事業報告・決算報告及び平成25年度事業計画・予算並びに役員(理事)の選任について協議され、全て承認されました。

総会に先立ち各地区事務担当者会があり、新しい登録等について説明がありました。今年も登録を各地区において、確実にしましょう。不明な点は、担当者に御連絡ください。

平成25・26年度新役員

会 長	北 哲郎	(代表理事)
副 会 長	松永 郁男	(執行理事)
〃	畑添 勉	
〃	堀之内俊隆	
〃	和田 茂市	
〃	田邊 侑	
専務理事	北菌 季康	(執行理事)
常務理事	木本 洋一	(執行理事)
理 事	西川 達也	(総務部長)
〃	山崎 逸郎	(審議部長)
〃	小林 義弘	(事業部長)
〃	田中 総一	(強化部長)
〃	古賀 雅弘	(事業担当)
〃	田島 史朗	(総務・審議担当)
〃	福元 雅一	(強化担当)
〃	中村 勇	(総務担当)
〃	向井 一輝	(強化担当)
〃	田原 幸一	(総務担当)
〃	西園 和昭	(事業担当)
監 事	柏木 茂穂	
〃	牧 光紘	(顧問医)
顧 問 医	入來 敦久	
	具志堅 隆	
書 記	鮫島 明美	
顧 問	寺前 弘道	
〃	入船 次典	
〃	豊永 強	
〃	木原 紀幸	
〃	亀丸 政弘	

柔道功労者等表彰者

・感謝状 2名

○ 亀丸 政弘

永年に亘り本県柔道の振興に尽力し、多大の貢献をした。

○ 稲田 博実

永年に亘り本県柔道の振興に尽力し、多大の貢献をした。

平成24年度 八段・七段・六段昇段者

- ・ **八段昇段者 (1名)**
松永 郁男 (鹿児島地区)

- ・ **七段昇段者 (7名)**
丸尾 卓郎 (鹿児島地区)
福元 雅一 (鹿児島地区)
堀切 祐公 (鹿児島地区)
宮里 秀則 (鹿児島地区)
蓮子 昭夫 (熊本地区)
木上 洋臣 (始良・伊佐地区)
安樂進一郎 (鹿児島地区)

- ・ **六段昇段者 (15名)**
井原 米吉 (大島地区)
沖 家寿 (大島地区)
程 卓郎 (大島地区)
内村 嘉徳 (出水・阿久根地区)
山本 武文 (出水・阿久根地区)
島 猛 (出水・阿久根地区)
佐藤 力勇 (鹿児島地区)
杉園信二郎 (鹿児島地区)
田畑健一郎 (鹿児島地区)
中島 誠 (鹿児島地区)
谷迫 宏 (鹿児島地区)
小川 勝志 (鹿児島地区)
小川 秀志 (鹿児島地区)
永野 和博 (始良・伊佐地区)
前原 正美 (鹿児島地区)

「感謝の気持ち」

県柔道会副会長 松永 郁男

この度、4月30日の講道館最高審議会で八段昇段が内定したことの連絡を北哲郎会長よりいただきました。また、九州柔道協会の藤田会長名で九州から推薦した者は全員合格したとの連絡がありました。

私の八段昇段は、本当に恥ずかしいような気持ちでした。

小学校3年より、柔道を始め、中学校の1年生では柔道部はあったものの、2年生では部員1名で廃部となり、2年と3年では野球部、陸上部で砲丸投げをしていました。

高校で、後藤秀明先生に毎日鍛えられ、県下の高校大会に出たのですが、たいした成果は挙げられませんでした。

大学では、中・法亢先生に指導を受け、柔道の奥の深さを教わりました。柔道部は全国国立大学大会で準優勝したりしましたが、九州学生大会で全日本学生柔道優勝大会へもう一歩手が届きませんでした。ただ、「お前たちの時に全日本学生にいかないといけない」と法亢先生の肝いりで県警機動隊との猛稽古が始まりました。

東京教育大の大学院に進学後は、中村良三監督が就任して間もない時で、毎日の練習が立ち技25本、寝技15本、合計40本の猛稽古でした。その時の東京教育大は全日本学生大会で2・3位の成績を納めていました。私個人は、講道館の月次試合に毎月四段の部に出ていました。

卒業後、国学院大学に奉職し、その後埼玉大学に転勤し、最後に鹿児島大学に移りました。あっという間の49年間が過ぎました。その間11年に亘り講道館の少年部の世話係をさせていただき、また、小谷澄之十段の指導を受ける機会もありました。

今回、八段昇段の通知をいただき、北哲郎会長のご指導を始め、多くの方のご支援があり、お礼も言わないまま失礼を重ねることに恥じ入る気持ちです。紙面をお借りして、お礼を申し上げ、挨拶とさせていただきます。本当に有り難うございました。

**「中学校柔道外部授業協力者」
の養成伝達講習会報告**

本県で1回目の標記講習会が、3月17日(日)県柔道会館、3月20日(水)奄美武道館の2か所で開催されました。

鹿児島会場では、22人の受講者があり、奄美会場では、17人の受講者がありました。講習内容は多岐にわたり、受講者は終日、学校理解、生徒の理解等10項目以上の養成カリキュラムを精力的に受講し、外部授業協力者の資格を獲得されました。

「柔道指導者講習会」報告

平成25年度の柔道指導者講習会が、5月16日(木)・17日(金)の2日間、県総合体育センターとの共催で県総合体育センター武道館で開催されました。県下各地からスポーツ少年団指導者をはじめ中学校・高等学

校・大学の柔道部顧問や指導者、警察署・刑務所の柔道関係者、一般の柔道愛好家ら約180人の参加がありました。

1日目は、午前中に鹿児島国際大学の亀丸政弘教授の柔道50年の回顧「武道必修化と柔道指導」という演題で、中学校武道の必修化の背景と意義などについて、自分の小さい頃からの柔道体験談を交えて話されました。

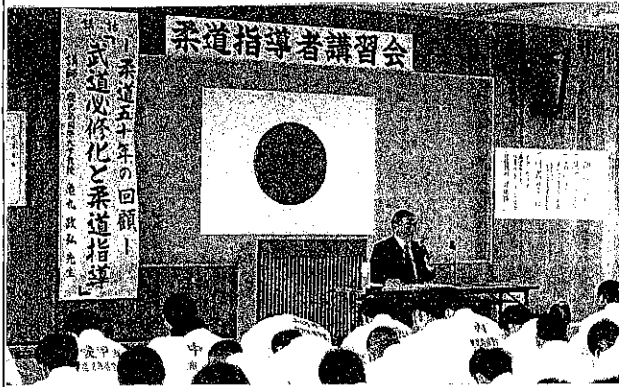
また、指導者の皆さんへ「教えることは簡単であるが、育てることは難しい」しかし、頑張してほしいとエールが送られました。

午後からは、講義Ⅰ「審判」「国際柔道連盟試合審判規定・少年規定」について、田中総一七段(鹿児島県警察本部総務課)が、具体的な資料やプロジェクター及びモデルを使った指導がありました。

2日目は、午前中の前半を2つの班に分けて、実技Ⅰ「固の形」向井一輝六段(鹿児島中央警察署)、中菌雅博六段(鹿児島県警機動隊)と実技Ⅱ「極め形」上村修五段(鹿児島水産高校教諭)、庵之下武志五段(出水高校教諭)の指導があり、後半は全員に対して、実技Ⅲ「投の形」福元雅一七段(鹿児島県警察学校)、肱岡博史五段(重富中学校教諭)の指導がありました。

午後からも講義Ⅱで中菌雅博六段(鹿児島県警機動隊)、向井一輝六段(鹿児島中央警察署)による平成24年度スポーツセミナーの伝達があり、次に実技Ⅳでの「審判法」「高段者試合」は、北菌季康七段(鹿児島県警察本部警務課)、田中総一七段(鹿児島県警察本部警務課)の指導がありました。

最後は、講義Ⅲで文部科学省委託事業「武道等指導推進事業」について、松永郁男八段(鹿児島県柔道会副会長)から説明があり、講習会の全ての日程を終了しました。



《 郷土選手の活躍 》

☆全日本カデ柔道体重別選手権大会

4月14日(日) 大阪府門真市なみはやドーム

**前田 千島(国分中央高校2年生)が
女子52Kg級で見事優勝**

☆ドイツカデ国際柔道大会

5月4・5日 ベルリン

**前田 千島(国分中央高校2年生)が
女子52Kg級においてオール1本勝ちで
見事優勝!!**

全日本カデ(15~17歳)強化選手の選考を目的に、全柔連が主催。男女とも8階級で全柔連指名の各階級8人が競った。優勝者は8月、アメリカマイアミで開かれる世界カデ柔道選手権に出場する。

このうれしい情報が飛び込んでから1か月も経たない内に、ドイツでの快挙があった。

国際大会初出場で、しかも出場68人と最多であり、対戦した6人の相手全てに1本勝で栄冠を手にした。8月の世界カデ柔道選手権での活躍が、大いに期待される。この勢いで、金メダルを目指して頑張ってください。

みんなで鹿児島から応援を送りましょう。

チェストー!! チェストー!!



柔道ルネッサンススピーチ

鹿児島南高等学校 高山 莉加

私は、これまで多くの大会を経験することができ、目標である日本一を達成することが

できました。目標達成のために日々努力を重ねてきましたが、楽しいことばかりでなく、怪我に悩まされたり思うような結果が出ない時期があったりと苦しいこともありました。

そんな私が目標を達成できたのは、自分一人の力だけではなく、周りの方々からの大きな支えがあったからこそと思います。多くの指導や助言をくださる先生方や辛い時も楽しい時も一緒にいた仲間、どんな時でも一番近くで応援してくれた家族、その他にも私の知らないところで応援してくださる方々のおかげで、目標達成することができました。

その中で、感謝の心や周りの人を思いやる気持ちなど、柔道のおかげで自分自身を成長させることできたと思います。

しかし、最近、その柔道が新聞やテレビなどの報道であまり良く取り上げられません。

そこで、柔道に対する信頼を取り戻すためにも私たち一人一人が嘉納治五郎先生が提唱された「精力善用」「自他共栄」の精神について初心に立ち返り、考え直す時ではないでしょうか。

私たちは、柔道を通じて1本だけでなく心も鍛えています。

柔道ルネッサンスにもある挨拶やゴミを捨てるなどの当たり前のことではありますが、このような点を今一度考え、私たちが愛しているこの鹿児島の柔道普及のために実践していくべきだと思います。

平成25年2月9日(土)

県選手権・県女子選手権大会開会式にて

全国身体障害者スポーツ大会と相撲体操 県柔道会顧問 入船 次興

昭和43年4月、県立聾学校に赴任したが戸惑いの勤務となった。専門的な手話や口話(唇の動きで言葉を読みとる)は、全くできず、意思の疎通・伝達が図れないのである。ただ体育は、身体活動を通じた授業であり、言語はあまり必要としなかったのが救いでもあった。

当時は、特殊教育諸学校として盲学校(視覚障害)、聾学校(聴覚障害)、養護学校(肢体不自由)の三部門が設置されていたが、普通学校(健常者)との交流はほとんど行われ

ていない状況であり、別世界の学校という感懐であった。

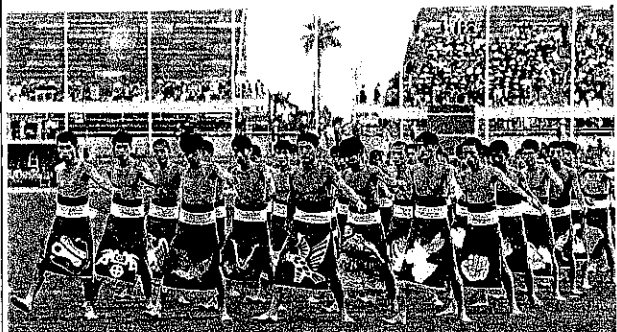
聾学校の生徒も校内では明るく元気に生活するが、いったん学校外へ出ると言葉が通じないこともあってか引っ込みがちなため、スポーツ活動を通して自負心を培い、積極的に行動する手立てを模索した。そして寄宿舎の舎監をしている中で、起床や消灯の点呼時に太鼓が集散の合図に使われていることに着目し、音の聞こえない生徒たちも太鼓の響きの波動は、伝播することに気づかされヒントとなり試行錯誤を重ねながら修練し、中学部・高等部全員による「相撲体操」を考案して体育大会で披露したのである。

昭和47年太陽国体終了後の11月11日、鴨池陸上競技場で幕開けした第8回全国身体障害者スポーツ鹿児島大会の開会式において、全国大会では初めての鹿児島聾学校生徒たちによる「相撲体操」が堂々と力強く演技された。このことが「やればできる」という大きな自信につながっていったように受け止めている。

さらに、国体のとき強化練習に使用された柔道場の畳を払い下げていただき、体育の授業に柔道を取り入れ稽古に励み対外試合にも出場するようになった。

本県で初開催の太陽国体から40年余りを経た今日、スポーツの基盤も定着し、幼児から高齢者・身体障害者に至る県民各層の健康づくり・スポーツ活動が幅広く行われており、7年後には2巡目の国体を迎えようとしている。

県民一丸となって力を合わせて臨み、太陽国体に勝るとも劣らぬ立派な成果を期待したい。



(道場めぐり 20)

「川内柔心会」のこれまでの歩みと現状
代表指導者 下野 雅浩

川内柔心会は、今から30年前、平田良吉先生、嶋田武夫先生、山口貫十先生らが基礎となり、先輩有志が集まり発足されたそうです。

その有志の中には、私の父もおおり、指導を続け、その後、私が引き継ぎ指導しております。その間、多くの先生方の熱心な御指導により、卒団員の中から優秀な選手もたくさん輩出しており、各大学や地元で活躍されています。私も川内柔心会の一期生ですが、指導をしながら当時のことが懐かしく思い出されます。

現在仕事の都合上、指導に毎回行けないため堤憲男、市野孝喜、下野弘造、上川隆雄、後藤勇作の6人により、木曜日は川内アリーナ、火・土曜日は川内警察署の御厚意により警察武道館で週3回、午後6時30分から8時まで稽古に励んでいます。

団員の子供たちも少なくチームを作ろうとすると、やっと2チームできるぐらいですが、6年生7名を中心とし、川内柔心会の標語としている「人に勝つより、自分に勝て」を念頭に、切磋琢磨しております。



小学生時代は、柔道の基礎を基本とし、受け身や正しい組み手で柔道をすることに重点を置き、また、相手の目を見て返事や挨拶ができるように指導しています。

指導者として心掛けていることは、子供たちに柔道を好きになってもらうこと、武道の素晴らしさを知り、薩摩藩の郷中教育の精神を取り入れた自分に負けず、礼儀正しく、ウ

ソをつかず、弱い者いじめをせず、相手の痛みの分かる人間になってもらいたいことなどです。

最後に、これからも県柔道会の指導を頂き川内柔心会保護者の御協力を仰ぎ、柔道の底辺拡大と青少年の健全な育成に微力ながら最善を尽くし、努力していきたいと思います。

(道場めぐり 21)

「山あり 谷あり」

末吉柔道スポーツ少年団監督 鮫島 芳美

末吉柔道スポーツ少年団は、昭和40年代後半に当時県内上位であった末吉中柔道部監督の森岡照雄先生が、その柔道部に続く後進育成のため設立し指導を始められました。

初期の団員は、末吉中に隣接した旧末吉町武道館で末吉中柔道部の稽古に(記憶では私が中学2年の昭和49年頃)小学生が数名参加していました。正式な少年団登録は昭和51年4月で、その後、指導者が2人替わられて、平成4年より私が4人目の監督を引き継ぎ、現在、毎週火・水・金の夜7時半から9時まで、夜間解放施設となっている末吉中体育館2階武道場で、23人が稽古に励んでおります。

設立当初より県大会の団体・個人共に優勝や上位入賞が数多くあり、全国大会にも2回出場しましたが、私が引き継いだ頃は弱小化していました。大会に備えて練習試合に連れて行けば、相手チーム準備運動で疲れ果て試合どころか稽古にもならなかったり、また、大隅地区は県トップレベルの強豪ばかりで、地区大会の団体戦は、隣で同時に始まった先方の試合が終わらないうちに、5人があつという間に投げられ終わる状況なのに子供たちは悔しがることもない有様でした。

しかし、試合を重ねる度に負け試合で悔し涙を見せる団員が出始め、「悔しい、強くなって勝ちたい」と涙を流す団員を見て「負けてばかりじゃ子供たちに申し訳ない」と考え遊ばせながらの基本だけの稽古から、基本を重視しながら実践的な稽古を増やし時折末吉中柔道部の胸を借りました。その結果、個人で県大会優勝や上位入賞する選手が出始め、平成15年旧末吉町武道館跡地に末吉中体育館2階道場が完成し、団員もそれまで以上に

稽古に励みました。

そして、平成17年県新人戦で優勝し、県代表として21年ぶりに全国大会に出場し、団体は初戦の2回戦で青森代表に1-1の内容負け、個人は5年の部で健闘し3位に入賞しました。翌年も県大会を連覇し、全国大会では前年より小柄なチームでしたが、団体準々決勝で東京代表に0-2で敗れベスト8、個人では前年3位入賞した選手が準優勝し、県代表として「武の国薩摩」の心意気を少しは見せてくれました。翌年3連覇を目指し団員は頑張りましたが、私の指導力不足で敗れ、その後、団体戦では全国大会出場は叶わず、団員数も10人を割り込む時もあり危機感を持ちました。



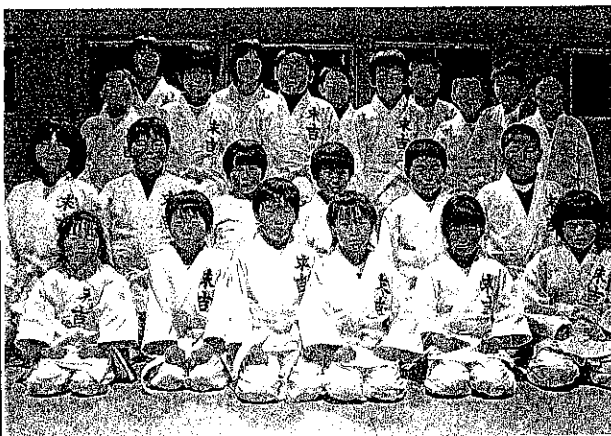
そこで、「薩摩柔道ルネッサンス宣言」を練習の終わりに復唱させて、他の競技との違いを保護者に理解してもらい、保護者による声かけやポスター制作などの協力をもらいました。また、稽古が夜間で道場も末吉中体育館2階ということもあり、一般の児童が柔道を見ることすらないため、少しでも関心をもってもらおうと、末吉小の校長先生に許可を得て、一昨年度より10日に1回程度、末吉小団員と私も柔道衣姿で学校玄関入り口に並び、朝7時20分から8時まで「おはようございます」と、登校してくる児童と挨拶を交わしています。学校も一般児童への啓発になるとして歓迎し「柔道少年団の挨拶運動」として学校だよりも掲載されました。

このように、学校の理解や保護者の協力もあり、入団者も20人を超え活気が出始めた時に、大阪の体罰問題と全柔連女子強化選手告発問題でした。これらは社会問題となり、指導者として深く反省し考えさせられまし

た。今までは、短時間の稽古で厳しく指導していましたが、今後はいかに指導すればよいかを考え、まず柔道日誌を書かせることにしました。ノートに日頃の稽古や試合での疑問点や反省点、感想などを団員に1行でも良いので書かせて、私なりの考えや助言を書くようにしました。日誌が少しは指導に活かせるかなと思っていたところ、一人の団員が稽古内容を詳細に、そして本人の反省点など常にびっしりと書いてきて大変驚きました。このような柔道日誌を通じて私と団員たちが理解し合えば、今後の成長に少しでも繋がっていくのではないかと考えています。

成長と言えば、21年ぶりに全国大会に出場した時の団員の一人は、地元中学から鹿児島県の県立高校へ進学し県内の高校生として、個人では男女を通じて初めて日本一になりました。また、翌年の個人6年で準優勝した選手も全国屈指の強豪私立中学の勧誘を断り、同じく地元中学から県立高校に進学し個人で全国3位に入賞しました。この二人の活躍は、中学校と高校で指導していただいた先生方のおかげであると心から感謝し、私や後輩の団員にとっては「鹿児島からでも日本一になれる、近づける」と大変大きな励みとなりました。

今後も県柔道会の先生方の御指導御鞭撻を賜りながら、「柔道を通じての人間形成」を私自身の目標にして、子供たちと一緒に修行に励み、来る鹿児島国体の少年男女の主力選手となる4、5年生を中心に「武の国薩摩復活」に貢献する選手を一人でも多く発掘し、県柔道会の発展に寄与できるように微力ながら努力する所存であります。



各種大会の成績(2月~5月)

- ・第23回鹿児島県柔道選手権大会
- ・第15回鹿児島県女子柔道選手権大会
2月9日(土)鹿児島アリーナ

☆男子 内 健治郎(県警機動隊)初優勝

☆女子 石橋 貴穂(鹿屋体育大)二連覇

【男子】

- 1位 内 健治郎(県警機動隊)
- 2位 中原 史貴(県警機動隊)
- 3位 松本三津夫(鹿屋体育大)
- 3位 濱田 恭輔(県警機動隊)
- 5位 有馬 岳(県警機動隊)

【女子】

- 1位 石橋 貴穂(鹿屋体育大)
- 2位 古賀ちなつ(鹿屋体育大)
- 3位 高山 莉加(鹿児島南高校)

3月の九州柔道選手権大会及び九州女子柔道選手権大会には、男子3位、女子2位までが出場しました。

- ・県下中学校新人柔道大会
2月10日(日)鹿児島アリーナ

◇団体戦(男子)

- 1位 鹿屋東中学校
- 2位 中種子中学校
- 3位 坊津学園中学校
- 3位 舞鶴中学校

◇個人戦(男子)

- 1位 清水 颯汰(坊津学園中学校)
- 2位 大脇 充倫(伊敷中学校)
- 3位 大久保魁皇(川辺中学校)
- 3位 安達 乃真(鹿屋東中学校)

◇個人戦(女子)

◇44Kg級

- 1位 有野 美優(帖佐中学校)
- 2位 濱田 優希(野田中学校)

◇48Kg級

- 1位 瀧川 琳花(伊敷中学校)
- 2位 川村瑠里奈(米ノ津中学校)

◇52Kg級

- 1位 小原 理生(舞鶴中学校)
- 2位 吉時 春菜(谷山中学校)

◇57Kg級

- 1位 長谷川 楓(帖佐中学校)
- 2位 豊永 華純(末吉中学校)

◇63Kg級

1位 八郷瑛美里(明和中学校)

2位 崎山久美子(帖佐中学校)

◇70Kg級

1位 野間 陽(舞鶴中学校)

2位 末吉 千湖(宮之城中学校)

◇70Kg超級

1位 古市 真愛(種子島中学校)

2位 上林山未来(鹿屋東中学校)

・県下少年新人柔道大会

2月24日(日)県武道館

◇団体戦

1位 柔心館道場(曾 於)

2位 修道館(鹿児島)

3位 米倉柔道館(鹿児島)

3位 南種子柔道スポーツ少年団(熊本)

・九州選抜中学生柔道体重別団体優勝大会

5月11日(土)福岡国際センター

☆鹿児島選抜 第2位

○優秀選手賞

田中 秀五(川辺中学校)

上林山未来(鹿屋東中学校)

[予選リーグ]

(1) 鹿児島①-0大分

(2) 鹿児島③-2長崎

[決勝リーグ]

(1) 鹿児島1-⑤福岡B

(2) 鹿児島③-3熊本

[選手]

男子55Kg級 田中 秀五(川辺中)

男子66Kg級 清水 颯汰(坊津学園中)

男子81Kg級 宮ヶ原康平(鹿屋東中)

男子無差別級 大脇 充倫(伊敷中)

女子48Kg級 瀧川 琳花(伊敷中)

女子63Kg級 長谷川 楓(帖佐中)

女子無差別級 上林山未来(鹿屋東中)

・県高等学校柔道競技大会

5月29日(水)・30日(木)

鹿児島アリーナ・メインアリーナ

【男子団体戦】

1位 明桜館高等学校(2連覇)

2位 鹿児島情報高等学校

3位 鹿児島工業高等学校

4位 鹿児島実業高等学校

【男子個人戦】

男子(60Kg級)

- 1位 宮 一輝(明桜館高校)
- 2位 芝元 大輝(鹿児島実業高校)

男子(66Kg級)

- 1位 向井 彬晃(明桜館高校)
- 2位 田之上 惇(鹿屋工業高校)

男子(73Kg級)

- 1位 富永 健斗(明桜館高校)
- 2位 上迫 治希(鹿児島情報高校)

男子(81Kg級)

- 1位 池平 大希(鹿児島商業高校)
- 2位 早水湧一朗(明桜館高校)

男子(90Kg級)

- 1位 松原 浩嗣(種子島中央高校)
- 2位 烏帽子義孝(鹿児島商業高校)

男子(100Kg級)

- 1位 徳田 力也(明桜館高校)
- 2位 前川 将悟(鹿児島工業高校)

男子(100Kg超級)

- 1位 萩原 優太(鹿児島情報高校)
- 2位 上野 公大(鹿児島実業高校)

【女子団体戦】

- 1位 鹿児島情報高等学校(初優勝)
- 2位 鹿児島南高等学校
- 3位 国分中央高等学校
- 4位 出水中央高等学校

【女子個人戦】

女子(48Kg級)

- 1位 飛松 杏奈(鹿児島情報高校)
- 2位 日笠山 愛(川内商工高校)

女子(52Kg級)

- 1位 前田 千鳥(国分中央高校)
- 2位 白澤沙也加(鹿児島南高校)

女子(57Kg級)

- 1位 大久保來來(鹿児島南高校)
- 2位 永田ひかり(鹿児島南高校)

女子(63Kg級)

- 1位 羽生明紀子(鹿児島実業高校)
- 2位 青柳 美希(鹿児島情報高校)

女子(70Kg級)

- 1位 牧田 朱加(鹿児島南高校)
- 2位 馬場のどか(れいめい高校)

女子(78Kg級)

- 1位 青柳 麗美(鹿児島情報高校)
- 2位 吉永 由麻(鹿児島南高校)

女子(78Kg超級)

- 1位 山下 里奈(国分中央高校)
- 2位 鬼塚葉瑠奈(鹿児島情報高校)

主な行事予定(6月~9月)

- 6月 8日(土) 県ジュニア体重別選手権大会
- 6月 9日(日) 県下中学校大会
- 6月23日(日) 県下小学生学年別大会
- 6月30日(日) 国体選手選考会(成年・少年)
- 7月23日(火) 県中学校総体柔道競技
~24日(水)
- 7月29日(月) 本部夏期講習会
~8月3日(土)
- 9月15日(日) 第67回県民体育大会柔道競技(アリーナせんだい)

**「2020年本県開催国体に向けた強化策」
の報告**

本年度県柔道会基本方針の一つとして、北哲郎会長が常に念頭に置かれている強化策の具体的な取組について報告します。

中学生、高校生、一般(県警機動隊・鹿屋体大)を中心に年間を通して計画的に、警察武道館・県武道館・南高校道場等で実施しています。

県中学生強化練習と銘打って、土曜日を中心に実施していますが、これに一般・高校が合同で実施したり、一般・高校合同の強化練習として実施したりしています。また、女子の強化についても、鹿屋体大・高校生を中心に男子と平行して実施しています。

スポーツ少年団においても、各団の交流を兼ねた練習会を実施しています。

関係指導者の皆様の熱心な取り組みが、「武の国薩摩」復活や郷土選手の活躍の原動力になっていると確信します。

今後とも、関係指導者の皆様の御協力をお願いいたします。

【編集後記】 親組織が何かと不安定な状態が続いている中、6月号としては、異例の8ページ編集となりました。これも偏に本県柔道愛好家の皆様の熱心な取り組みと子供たちの一途な取り組みの結果と心から感謝します。